

史跡
高井田横穴特別公開
5.20日
10:00~15:00

館長と学ぶ
大和川講座
3.25日
「奈良時代の行幸と離宮」

4.22日
「青谷遺跡と竹原井頓宮」

5.27日
「万葉集と大和川」

当館3階研修室
13:30~15:00

講師：
安村俊史（当館館長）
定員60名
参加費無料
申込不要
（当日13時より受付）

2017
3.25日
|
6.11日

春季企画展

竹原井頓宮

た
か
は
ら
い
の
と
ん
ぐ
う

1,300
年の時を
超えて

入館無料
月曜休館（祝日は開館）
9:30~16:30

JR大和路線 高井田駅から
徒歩約5分

近鉄大阪線 河内国分駅から
徒歩約15分

柏原市立歴史資料館

大阪府柏原市高井田 1598-1 電話 072-976-3430

竹原井頓宮

養老元年（717）2月、元正天皇が和泉宮から平城宮へ還る途中に、竹原井頓宮に宿泊したことが『続日本紀』に記されています。竹原井頓宮が史料に初めて登場してから、今年（2017年）でちょうど1,300年となります。

天皇が外出することを行幸といいます。頓宮とは、天皇が行幸するときに宿泊する仮宮のことです。昭和59年（1984）に、その竹原井頓宮の跡ではないかと考えられる遺跡が、柏原市青谷で発見されました。今回の企画展では、この青谷遺跡の調査成果を広く紹介し、竹原井頓宮の性格や変遷について考えてみたいと思います。

竹原井頓宮は、元正天皇だけでなく、聖武天皇、光仁天皇らも利用し、奈良時代に天皇が平城宮と難波宮を往来する際に使用されました。難波宮への行幸は大和川沿いの竜田道を利用していましたが、青谷の地は平城宮から難波宮へのほぼ中間地点にあたるだけでなく、すぐ近くを流れる大和川や間近に迫る山々などに囲まれた景観にすぐれた地です。これらの理由によって、青谷の地に頓宮が営まれたようです。そして、大和川の対岸には河内国分寺が創建されました。

青谷遺跡では、凝灰岩切石積基壇に建つ瓦葺きの建物が確認され、その周囲を回廊状に建物が囲んでいたようです。これらの遺構は、天皇の宮にふさわしいものです。ただ、この瓦葺建物は、奈良時代中ごろ（8世紀中ごろ）の遺構と考えられ、8世紀前半の遺構についてはよくわかっていません。また、8世紀後半には回廊が掘立柱塀などに改築されているようです。

竹原井頓宮は、竹原井離宮とも竹原井行宮とも記されています。瓦葺きの建物が建っていたころには離宮と呼ばれ、その後の改築に伴って行宮と呼ばれるようになったのではないかと考えられます。実態はまだまだわからないことが多いのですが、竹原井頓宮の変遷について、さまざまな視点から考えてみたいと思います。造営されて1,300年となることを記念し、少しでも多くの方々に竹原井頓宮について知っていただきたいと思います。

—主な展示資料—

青谷遺跡出土軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・面土瓦・埴・土師器・須恵器、河内国分寺跡出土軒丸瓦・軒平瓦、安堂遺跡出土木簡・杓子・箸（いずれも柏原市立歴史資料館所蔵）、青谷遺跡遺構模型・地形ジオラマ、河内国分寺塔復元模型（柏原市市民歴史クラブ作製）